The society of Urban Pest Management, Japan

ラップに昆虫は集まってこない．そこに，第一の「なんでやねん」がある．たとえ，翻訳が成功し，フェロモントラップに昆虫が集まったとしても，人間が手にすることができる最初の情報は「虫の数」だけである．この虫の数からどんな情報を引き出すのかが，第二の「なんでやねん」である．

そして，「なんでやねん」は虫の種類数に等しい数だけある．まだまだ，虫と縁を切るわけにはいかない．「謎解きの面白さ」は続く．「ソロモンの指輪」ならぬ，「フェロモンの指輪」を目指して！

（富士フレーバー(株)エコモン事業部
篠田一孝）

冥土の旅の一里塚

新しい年を迎えながら初日の出を撮影に出かけるのが恒例になっている．勿論今年も出かけた．

誰もいない海岸で一人，ブツクサといろんなことを呟きながらカメラを準備するのが楽しく，別に独り言を言う癖があるわけではないが，初日の出撮影の時間だけは，寒さに耐える間に，つい独り言になってしまうことを自覚している．

年末の耐震構造計算書偽造事件の成り行きを見ては，なんとなく日本経済界の本質的なあり様が露呈したかのような感じを受けていただけに，このことに関しては，日の出を迎えるまでに可なり悪口を言い続けた気がする．そもそも，利益追求の目的達成のためなら，どんなことをやっても「正義」と考えてしまうのが国内経済人たちに共通な特長だと受けとっている私にとっては，あの一連の経済人たちの行動習性は国内経済界の一般的行動習性を象徴したものに見えてならなかった．

メディアの多くに登場する各種知識人たちも，なんとなく同じ仲間に見えて仕方がないし，メディアそのものに対してさえ，「続きはCMのあとで」と言う名句が当然のように慣用されていることから推察すれば，やはり，本質的には同じ仲間なのだとしか思えないところが，私が年老いた所為か？　などと自嘲しながら，初日の出を迎える老人の丸くなった背中を想像して欲しい．

ついでに，昨今，急激に悪質化してきた各種の犯罪事件にしても，容疑者の，事此処にいたるまでについて識者と称する人々が，自己の推理思考を披瀝し，聞いていて充分納得させる論理展開など見事なまでのタレントぶりを見せてくれる．しかしながら，なぜこういう犯罪者軍団が此処まで成熟したのだろうか？　どんな教育を受ければこういう犯罪者予備軍に育つのだろう？　という，容疑者軍団の養成講座教育を振り返ろうとするものがいないのはなぜだろう？

たとえば，公務員のカラ出張流行のときに，彼らは「返却」して罪状を消去したかのような奇妙な「始末」をつけたことがあった．警察も検察も司法的立場からの追及はほとんど見せてくれなかったと記憶している．これは司法当局が今後日本列島では財産犯に関する法的制裁を放棄したのだろうか？　と，私には思えてならなかった．逮捕状の発行を受けて逮捕に向かった司法警察員に対して「窃取し，または騙取し，もしくは横領した財物は返却しましたから，もう逮捕しなくてもよいでしょう」という犯罪者の論理が成立する論理社会になったことを意味していると理解したからだ．

行政改革にしても，国の予算は膨らむばかりで縮小することを知らなかった日本国政府の歴史を，誰も見直ししようとしないのはなぜであろうか？　公務員が予算を活用して特別な利益を捻出したわけでもないのに，ボーナスを出す！期末勤

NII-Electronic Library Service

The society of Urban Pest Management, Japan

勉手当を支給するということの不思議さにさえ，誰も気づいていないのも可笑しな現象であると，私には思えてならない．戦後の労働運動華やかなころ，賃金問題の勉強をしたことがあったが，当時の労働法関係学者らの著書には，「公務員のボーナス支給は低賃金をカバーする，労働賃金の後払いである」という趣旨の主張が多かったことを私は記憶している．現在のようなかなりの高額賃金では後払いというボーナス観は成り立たないようなのであり，したがって民間と同じように利益の分配がボーナスの基本であると考えると，もっぱら消費するだけの公務員にボーナスを支給する根拠を問い糺したと思い続けているが，この質問を公にすれば，絶対に私が社会的に締め出されてしまうから，黙っているだけである．スペースも尽きたし，この辺で冥土への手土産は打ち切ろう．

初日の出は厚い雲に覆われて豊後水道上空では一瞬にして消え去った．私の呟きが聞こえたのかもしれない．現在社会のあり方に，太陽が赤面してくれたのかも？　と，ひとりで失笑しながら，たった３枚の初日の出の写真を物にしただけに終わった元旦であった．世の中の出来事をやはりもう一度考え直すクリンネスを熱望してやまない．　　（(株)大分イカリテクノス　菊屋奈良義）

NII-Electronic Library Service